

住宅、自動車需要が減少傾向に

それでも国内銅需給はなお締めまり気味
橋本健一郎氏リポート①

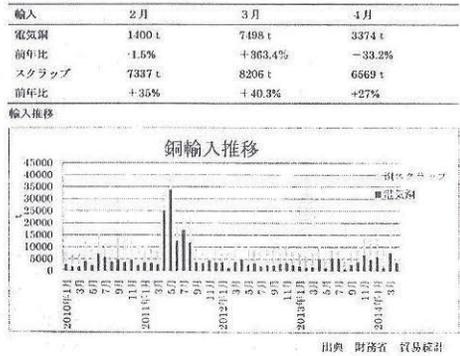
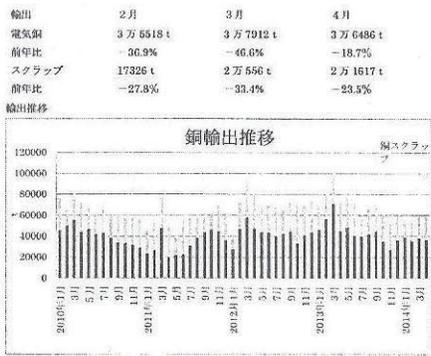
■概況
五月前半は四月の中国製造業購買担当者指数が五〇・四と予想の五〇・五を下回ったことや、米FOMCでドラギ総裁が資産購入枠を月四五〇億ドルに圧縮した事などのマイナス材料はあったが、四月の米ISM製造業景況指数は五四・九で事前予想の五四・三を上回ったこと、上海在庫が一〇万tを割ったこと、LME在庫が二〇万t割れ寸前まで減少した事から中国の銅需要拡大観測が台頭。また、LMEニッケルが二万ドル超えをしたことも追い風となり、LME銅相場は上昇。六、六七七ドル(セツル)と前月最終価格より二〇〇ドル上げての前半締めとなった。

後半は五月の中国HSBC製造業購買担当者景気指数が四九・七に上昇したこと。中国の李首相が先週末、企業の資金需要に応えるように金融機関は方針を調節すべきと発言したこと。中国の景気刺激策に対する期待が高まったこと。ユーロ圏サーブیس業PMIが五三・五と予想に反して良かったことなどのプラス材料もあったが、インドネシア経済担当調整大臣の禁輸緩和発言でニッケルが再び二万〇、二〇〇ドルから一万九、三〇〇ドルまで暴落した。また、五月の中国HSBC製造業PMI改訂値は四九・四に下方修正。五月のユーロ圏CPI速報値は前年比〇・五%上昇、予想の〇・七%上昇は下回ったこと。さらに中国青島港保税倉庫で銅二万t、アルミ八万tの倉荷証券が複数の金融機関の担保にされている多重債務問題が台頭、現在、鉄鉱石、銅、アルミの出荷停止が行われているとの報を受け下落。六月五日現在、前半締めから一四二ドル下落の六、八三五ドル。建値七五万円のスタートとなった。

- 前月の経済指標
月間のドル/円レート(TTS)
一〇三・二〇→一〇二・七四(円)
- ◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比三・四%増の七七万〇、四八四台であった。
- ◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五・六%減の二〇万六、九〇六台。
- ◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸

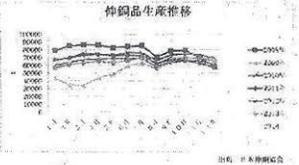
数は前年比三・三%減の七万五、二八六戸であった。

◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が一八・七%減の三万六、四八六t、スクラップが二三・五%減の二万一、六一七t。輸入は電気銅が前年比三三・二%減の三、三七四t、スクラップ二七%増の六、五六九t。

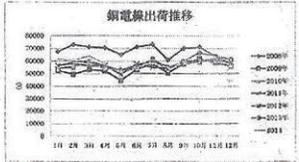


■前月の国内指標
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比八・六%増の七万〇、八八〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前年比六・五%増の五万八、五〇〇tであった。(六面へ続く)

(四面より続)



出所: 日本銅業協会



出所: 日本銅業協会

■見通し

四月は中国経済減速懸念およびインドネシアのツケ禁輸措置への対応に一喜一憂した月となった。

自動車生産は七万台、四八万台で、前年同月の七四万五、三三〇台に比べて二万五、一六四台・三・四％の増加となり、八カ月連続で前年同月を上回った。

①乗用車六万五二、四九〇台で二万〇、八〇六台(三・三％)の増加となり、八カ月連続のプラス。

②トラック一〇万七、五六二台で五、一四四台(五・〇％)の増加となり、一〇カ月連続のプラス。

③バス二万〇、四三二台で七八六台(七・〇％)の減少となり、五カ月ぶりにマイナス。

このうち大型は七三二台で三九台(五・六％)の増加小型は九、七〇〇台で八二五台(七・八％)の減少。

四月の国内需要は三四万五、二六六台で、前年同月比五・五％の減少であった。

うち乗用車二九万二、八二六台で前年同月比五・一％の減少、トラック五万二、七五七台で同七・一％の減少、バス六四二台で同二八・六％の減少。

輸出は前年同月比五四・四％の減少(実績)。

自動車販売は二〇万六、九〇六台で五・六％減少。うち、乗用車八、九〇六台、貨物四・七％増、バス一九％増。

四月の住宅着工戸数は、七万五、二八六戸(前年同月比三・三％)減、季節調整済年率換算値で九〇・六万戸(前月比一・三％)増。二カ月連続マイナス。

消費マインドの改善等もあって、堅調に推移してきたが、足下では、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が表れている。

(持家) 前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比一六・一％)減、季節調整済の前月比四・〇％増。

(貸家) 前年同月比では一四カ月連続の増加(前年同月比一三・〇％)増、季節調整済の前月比二・八％増。

(分譲住宅) 前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比七・八％)減、季節調整済の前月比五・七％減。

(分譲マンション) 前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月比二・六％)減。

伸銅品生産は前年比八・六％増の七万〇、八八〇トで二〇一二年七月以来の七万トを超え。

このうち、内需は五万八、五八九トで九・七％増と八カ月連続の増加、輸出は一萬二、二九一トで三・四％増と、三カ月連続増加。

品種別では銅条が二万〇、九〇〇トで五・一％増と一〇カ月連続プラス、黄銅棒が一萬六、七九四トで二五・八％増と一〇カ月連続プラス。

銅電線出荷量は、前年比六・五％増の五万八、五〇〇トのうち、国内一％増、輸出が三〇・九％増。部門別では、通信一〇・九％減、電力二〇・九％減、電気機械二・二％増、自動車三・八％増、建設電版二・八％増、その他内需二・九％増。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比一八・七％減の三万六、四八六ト。銅メッキは三五・五％減の万二、六八七ト。先月に続き下ルルは二〇二四台で変わらなすが発生難、好調な需要を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅がスクラップ輸出は減少した。

輸入は電気銅が三三・二％減の三、三七四ト。スクラップは二七・五％増の六、五六九ト。

電気銅は先月の大量入荷で一旦落ち着いた。スクラップは国内発生量の減少及び価格停滞による原料の出し渋りから代替品として輸入品が大幅増加した。

【銅需要に関する見通し】 住宅関連は新設住宅着工数が前年比三・三％減の二万月連続減少。持家一・六％増、貸家二・〇％増、分譲住宅七・八％減。分譲マンション一六・九％減と大幅減少。

消費税率前の駆け込み需要も終了確定。二カ月連続減少。来月の動向に注視したい。

自動車は生産が八カ月連続上昇の三・四％増。ただし五月の国内販売台数が前年比五・六％減。今のところ販売減にも関わらず生産は堅調。来月以降に注目。

前月に続き消費税率前かけ込み需要の反動からから住宅、自動車需要の二本柱が減少傾向にあり、共にこの水準で落ち着くか注視したい。

為替が前月から引き続き二〇二〜一〇三円附近と円高が継続している。LMEの上昇を受けて建値が七五万円付近まで上昇したが、発生を上回るスクラップ需要から需給は今後も引き締まると予想。

駆け込み需要は終了した感はあるが、慢性的なスクラップ不足も加わり需給は締めまり気味。

【銅価格に関する見通し】 今月はインドネシアのツケル鉱石の禁輸措置政策の対応及び中国・青島港の多重債務問題に左右される。

インドネシアのツケル鉱石の禁輸措置政策への対応に関しては、インドネシア国内への精錬所の建設が担保されれば即減税するのではとの報道もあり、緩和する方向に向かうのは確か。ただ今月中にそれらが解決される可能性は低く、年内は一喜一憂と予想。

中国・青島港の多重債務問題に関しては多かれ少なかれ事実である認識しているが、一旦はセンチメントの悪化、△ツケルから暴落する可能性があるものの、政府が不良債権の買い取り機関などの策をとると考えており来月に降は落ち着いた相場展開になるのでは。

それらを踏まえた銅価格、上値は、インドネシアのツケル鉱石の禁輸措置政策のトフル及び中国・青島港の多重債務問題への道筋が確認された場合に、ツケルのバック買いを受け五月高値のもう一段高の七、一〇〇ドルを予測。いずれの場合も六、八〇〇ドル。

下値はツケル鉱石禁輸問題の目的を青島多重債務問題での未対応が起れば、失望感から五月後半も一段安値の六、六〇〇ドル。

為替PICTSは欧州のPMIをはじめとする指標が比較的安定している事や米経済指標も堅調なことから、欧米共に変化のない場合、下値はドルレイト高円安から三月安値の一〇四円台。上値は欧米の経済指標が著しく悪化した場合、失望感から二〇二円まで円高が進むとの予測。

銅建値は、七二〇〜七八〇円程度と予測している。